

制服ディズニー

阿野清哉、大友有人、張宗智

フェイスブックなどの SNS には、制服を着た若者がディズニーランドで撮った写真が多く投稿されている。それは近年流行してきている「制服ディズニー」で、大学生がかつて自分が着ていた制服を再度着用してディズニーランドに行くという現象だ。特に、大学のサークルなどではよくそのようなイベントが企画され、仲間どうしでディズニーランドへ遊びに行くことが多くあるそうだ。

「制服は昔、管理の象徴であった」と、お茶の水女子大学で制服の研究をしている難波知子教授は言う。生徒に同じ色、同じデザインの制服を着せ、統一感を出すことによって、その学校の生徒であるという帰属意識を持たせている。それによって生徒が全体の秩序を乱さずに生活するというのを学校側は期待していた。つまり、制服には教育的な側面がある。

ところが、最近では制服に新たな価値を見出す若者が増えているという。彼らは、中高時代のように制服を「管理の象徴」というマイナスなイメージで捉えていない。あえてかつての制服を着用し、制服を着用していることを楽しんでいるのだ。その例として挙げられるのが、冒頭で取り上げた制服ディズニーである。では何故、高校を卒業した大学生や若者が制服をディズニーランドに着て行くようになったのか。「卒業した後に制服を着るとするのはかつての自分に戻るということであり、ディズニーランドという夢の国ではそれが許されるという感覚がある。」と、難波知子教授は指摘する。かつて着ていた制服を再び着ることで、楽しかった青春時代を思い出し、また同時に自分の若さも再確認できるのかもしれない。制服は昔の自分にタイムスリップさせてくれるものであり、「美化された思い出の象徴でもある。」と、難波教授は言う。

制服は管理と抑圧という意味をもちながらも、若い時にしか着られない特別なものであるがゆえに、さまざまな意味をもち多様な変化を遂げ今では若者文化の一部になっている。現代では、指定された制服を自分なりにアレンジして自己表現をする「なんちゃって制服」という現象も流行している。例えばブレザーの下にピンクのパーカーを着たり、制服にリボンをつけたりするのだ。制服からは、時代の風潮や若者の思考様式を垣間見ることができる。

[編集後記]

自分のまわりで流行っている制服ディズニーという現象を疑問に思ったため、調べてみました。その結果、制服ディズニーについてだけではなく、制服の歴史的な変遷や制服が持つ意義について知ることができ、とてもためになりました。快くインタビューに応じてくださった難波教授にはとても感謝しています。(阿野)

毎日制服を着ていたのので、中高生のときは私にとって制服はただの服と同じようなものでした。しかしインタビューを行い記事を書いていくうちに、人々が制服に対して抱いているイメージが人それぞれ違うことを実感し、それはとても新鮮な経験でした。また今回初めて新聞記事を書いたのですが、先輩に頼りがちになってしまいました。今回見つかった反省点を次に生かしていきたいです。(大友)

制服を学問的に考えてみると、今までにない視点が得られました。制服というと中高で誰もが当たり前に着てきたものであり普段それについて考えることはなかったのですが、取材を通して思ったよりもはるかに深く、興味深い意義があるのだとわかりました。(張)